



先行一杯後方  
儘 vol.5



ippaimama

<今週の予想>

◎11番ダノンヨーヨー

○2番 ライブコンサート

▲8番キングストリート

×15番ゴールスキー

△13番ガルボ

皐月賞の一週順延によって日曜開催となった今年のマイラーズカップ。18頭立てフルゲート、メンバーもやや混戦気味に実績馬が集まり、今年も安田記念・ヴィクトリアマイルを占う重要な1戦となったことは疑いようがない。

さて、実績馬が集まったということは、裏を返せば過去に対戦歴のある馬が多いということ。実際、一部の昇級直後の馬、明け4歳馬を覗けばだいたいの馬は近走どこかでぶつかっている。もちろんそのまま勝負付けが済んだと考えるわけにはいかないけれど、ただでさえフルゲートの難解な1戦。ここはひとつ、各レースをひとつひとつを評価していくことでなんとなく方向付けていきたい。

①富士S (2010年10月23日)

ダノンヨーヨー (1着) ライブコンサート (2着) ガルボ (3着) キョウエイストーム (9着) ショウワモダン (14着)

同じようなマイルGⅠの前哨戦だけあって出走馬中5頭が出走している。レースとしては府中のマイルらしい追い比べのタフなレースで、先行集団から踏ん張ったガルボ・ライブコンサートらの脚があがった中を外からダノンヨーヨーが悠々と抜き去っていった。時計的にも1:32.8という数字は、過去5年間の富士Sの中でも抜けている。ならばその時計の中で前から残った2頭がよいかといえば、最後の1Fが12.2とかかかっており(元々府中のマイルは最後かかるのだが)、これを抜けなかった他の差し馬が少々不甲斐なかったという見方もできなくはない。

②マイルCS (2010年11月21日)

ダノンヨーヨー (2着) ゴールスキー (3着) ライブコンサート (5着) スマイルジャック (6着) アブソリュート (12着) キョウエイストーム (14着) ガルボ (15着) ショウワモダン (17着)

こちらでも、出走馬の半数の8頭が被って出走。レースとしては気持ちよくリードを保って逃げるジョーカプチーノ、番手集団を率いるマイネルファルケともに飛ばし気味で、結果として前の馬は直線半ばでバタバタと脚を止め道中中段～後方馬の残った脚によるずらっと広がった追い比

べとなった。勝ったエーシンフォワードはワンテンポ早く内をつけた結果であり、上位陣にそれほど差はなく感じる。6着のスマイルジャック以下の馬は多くが止まっていたのに対し2～5着の馬は明らかに伸び脚を残していたので、ここにひとつの境界線を引いて評価すべき。

### ③阪神カップ（2010年12月18日）

ガルボ（4着）ゴールスキー（5着）リーチザクラウン（7着）

これもタフなレース。強い先行集団の1・2着2頭が後続を振り切って勝利。注目すべきはガルボで、4着に破れはしたものの始終馬群の中で詰まりっぱなしでのもの。勝てたかとはともかく、実力を発揮しきれなかったことは疑いようがないだろう。ゴールスキー・リーチザクラウンの両馬は外から差し込んでそれなりの走り。位置取りからいってあがりタイムは及第点といったところ。

### ④京都金杯（2011年01月05日）

シルポート（1着）ガルボ（2着）ライブコンサート（3着）ショウリュウムーン（9着）ダンツホウテイ（12着）

こちらは完全にスローからのよーいどん！なレースで、前が余力を活かして綺麗に残ってしまった。本来は先頭を捉えられる位置にいながらなかなかなか差を詰められなかった2枠の2頭（ガルボ・ライブコンサート）は少し物足りないかもしれない。またこうしたレースでは後方待期組の実力は概ね上がりにも現れるため、置いてかれてしまったショウリュウムーン・ダンツホウテイの2頭は厳しい。逃げたシルポートも、京都ならいざしらず阪神で相手教化となる今回もこうも見事にはまるとは思えず大きな期待は持ちにくいかと。

### ⑤東京新聞杯（2011年2月6日）

スマイルジャック（1着）キングストリート（2着）ゴールスキー（3着）シルポート（6着）ダノンヨーヨー（7着）フラガラッハ（11着）ショウワモダン（15着）

シルポート・ファイアーフロートの2頭が離して飛ばしたものの、基本的に後方集団はよーいどん！で上がりも全体に詰まって早い。このペースで6着まで粘れるとは、シルポートは思っていたよりもしぶといようである。ダノンヨーヨーは後ろ過ぎ、上がりの時計を見るなら当然まだまだ見限れない……と思いきや最後は完全にゴールスキーにすら脚色が劣り、勢いのないゴール前の走りである。そして最後まで伸びているのはキングストリートのみ。位置取りを加味すれば、このレースのベスト・パフォーマンスはこの馬か。

### ⑥ダービー卿チャレンジトロフィー（2011年4月3日）

ライブコンサート（2着）キョウエイストーム（3着）ダンツホウテイ（6着）ショウワモダン（

## 7着) コスモセンサー (9着) キングストリート (13着)

今回と同一競馬場の同距離、直近のレースということもあり参考度は高そうだが、ここで好走している馬は逆に疲れが出てくる可能性もある。展開としてはこちらもドスロー。逃げたブリッツェンが逃げ切り、先行集団から抜け出してきたライブコンサートが2着。この展開から差し込んできたスマートステージ・キョウエイストームの両馬はそれなりに評価できる。キングストリートは上がり時計上は悪くない数字を出しているが、当然ここをあの位置取りからぶった切れるほどの切れはなかった。間洛陽Sを使った疲れもあったのかもしれない。また、コスモセンサーが完全に内詰まりを起こして終わっていて、今回は巻き返しが期待される。だがそもそもその実力が通用するかは怪しいところである。

以上、昨年の秋からざっと過去の対戦レースを上げてきた。なお、今までのレースに一度も姿を見せていないのはロードバリオス・クレバートウショウの六甲S組と、休み明けとなる牝馬三冠馬のアパパネのみ。前者に関してはそもそものレベルが疑問だけにあまり気にしないでもいいとして、アパパネの扱いをどうするのか。これはとても悩ましい。まあ結論からいってしまうと、わりと自信を持って今回は軽視する。エリザベス女王杯の走りや同世代牝馬の成績を見る限り、即座にこの馬がここで通用するとは思えない。オッズ的には4番人気とやや妙味含みであるが、ここ来ちまったら黙って兜を脱ぐ精神でいきたい。……というと来てしまうのが競馬なんだがね。

以上、印の方は冒頭に上げたとおり。東京新聞杯の凡走がやや気がかりではあるが、昨秋見せたパフォーマンスを見る限りこのメンバー中ダノンヨーヨーは一步抜けている。まあ北村友一騎手には可愛そうだが、内田博騎手への乗り替わりもプラスにこそなれマイナスには働かないだろう。もう7歳となったライブコンサートもぼちぼち勲章を増やしてもいいころではないか。ペースがきつくなろうが緩くなろうが変わらない、相手なりに走る信頼感は素晴らしい。あとは展開と運ひとつ。キングストリートは洛陽Sでもリディルあたりを子供扱いしていることだし、体調と位置取りひとつでどう転ぶかわからない。東京新聞杯の走りを思い出せば。あとは差しが決まる展開ならゴールドスキー、前が残る展開ならガルボが4番手候補。印的には、前者の傾向があるとみてゴールドスキーを重く置いた。

---

本予想によって生じた損害等には、一切の責任を負いません。

<今週のてきと一雑感>

えーと、ネタがないです。まだ4回目だぞこの雑感、どうすんだ。まあね、普段なら南関は重賞が水曜日だから火曜夜、そして中央は土曜夜に書くのでうまい具合に一週間が区切れるんですが、今週は前回が木曜夜でしたからねえ……

あ、そうそうクラウンカップでは見事な逆神予想を披露しましたねわたし（泣）競馬というものは本当にあまのじゃくなもので、思えば適当に「おっ、この馬前々走上がり33秒台あるじゃん！」とかわけもわからずやってたころの方が儲かっていた気がしないでもないです。理屈倒れってやつですね。まあこれにもちゃんと理屈がありまして、普通勉強すればするほどオーソドックスな予想ファクターを見るようになるために、人気に打ち筋が寄ってしまい結果イマイチ儲からなくなっちゃうんですよ。パリミュチュエル方式の性質上、他人と同じことをやっていると控除の壁が一番厚い。こうなるとほとんどの人がこれじゃいかんやっぱり競馬は攻めなけりゃなんて思い立ち意識的に穴を狙うわけですが、よっぽどの堪え性がなければ穴党なんてつとまらず結果こちらもち打ち筋があらぬ方向に荒れてしまい散々な結果に終わる。しまいには怒りの撤退で本命党へ逆戻り。まあ、そんな振り子の行った戻ったを三回四回とこなしていくうちに、場外にいらっしゃる印+カンで小銭をちらちら場に落としては拾う哀愁漂う灰色の競馬親父が誕生しちゃうわけです。え、なにが言いたいかって？うーん、結局競馬を愉しむなら実はけんとか買いが一番なんじゃね？ってことでしょうか。あれなら、本命穴なんて超越してますし、好きな馬からのサインを無理矢理作って買うのってMMR的でなかなか面白い。一発でも1000万馬券を当てたなら、生涯の競馬をプラスで終わらせることも可能なわけですし。正統派にはバカにされがちですが、あれはあれでなかなか深い買い方だと思っております。あれ、まとまったのかなこれ。まあ次回は真面目なネタやるから許してください。それでは。

---

本予想によって生じた損害等には、一切の責任を負いません。